

遠心機械を小起因物とする死亡災害事例（1999-2021年）

年	月	発 生 時	死亡災害事例	業種 (小)	事 故 の 型	労 働 者 規 模
2016	2	14 ～ 15	被災者は、遠心鑄造機2号機上で使用する金型の注湯口側の金蓋取付作業後、残りの作業を同僚と交代し、遠心鑄造機の1号機と2号機の間になされた金蓋取付で使用したハンマーをとり、所定の位置に戻した後、金型の反転に使用したピン抜き用の治具を拾うために再び取りに戻ってしゃがんだ際、被災者の背中側から遠心鑄造機1号機上で約800rpmで回転する金型注湯口側の金蓋固定用コッターピンに接触し巻き込まれた。	11001	7	100 ～ 299
2006	9	23 ～ 24	フェルト製品の製造作業中において、綿を送り出すための装置の下部カバー内で綿が詰まったため、被災者が詰まった綿をカバー下部から取り出していた所、綿が一度に大量に落ち、カバーから引き抜いた際にカバー下部にある脱水機のシュート部で回転していた綿に引き込まれ、脱水機の壁面で強打した。	10209	7	1～ 9
2003	4	10 ～ 11	工場1階のドラムで革なめしと染色を行う作業で、2名でドラム内面にある爪（木製の突起物）の取替え作業を行うため、ドラム内に入り爪の取替えを行い寸動でドラムを回転させたところ、配電盤のスイッチが焼付いたためスイッチが切れなくなり、中で作業していた者が巻き込まれ、ドラムの開口面より外に投出された。	10807	7	1～ 9
2001	11	10 ～ 11	火力発電所の石炭灰処理工程で遠心分離機のメンテナンス(ろ布交換)を行っていて、本来整備すべきであった分離機と違う分離機に誤って入って作業し、分離機が自動制御で回転したため巻き込まれた。	30302	7	1～ 9

2001	1	14 ～ 15	生コンの砂利、砂を再生するために分離する円筒状の機械で、付着したコンクリートを筒の内側からはつるため中に入ろうとしたときに、起動ボタンに触れたため筒が回転し身体を挟まれた。	10901	7	30 ～ 49
2001	1	17 ～ 18	H型鋼用ロールを製作するため、鑄鉄を溶解したもの(溶湯、温度1450℃、質量13.25t)を豎型遠心鑄造機に回転させながら流し込んだ後、数分後に上金型が浮き上がり同時に上カバーが持ち上がって溶湯が噴出し、飛び散った溶湯により火傷した。	11002	11	50 ～ 99
2001	1	17 ～ 18	H型鋼用ロールを製作するため、鑄鉄を溶解したもの(溶湯、温度1450℃、質量13.25t)を豎型遠心鑄造機に回転させながら流し込んだ後、数分後に上金型が浮き上がり同時に上カバーが持ち上がって溶湯が噴出し、飛び散った溶湯により火傷した。	11002	11	50 ～ 99
2001	1	17 ～ 18	H型鋼用ロールを製作するため、鑄鉄を溶解したもの(溶湯、温度1450℃、質量13.25t)を豎型遠心鑄造機に回転させながら流し込んだ後、数分後に上金型が浮き上がり同時に上カバーが持ち上がって溶湯が噴出し、飛び散った溶湯により火傷した。	11002	11	50 ～ 99
2001	1	17 ～ 18	H型鋼用ロールを製作するため、鑄鉄を溶解したもの(溶湯、温度1450℃、質量13.25t)を豎型遠心鑄造機に回転させながら流し込んだ後、数分後に上金型が浮き上がり同時に上カバーが持ち上がって溶湯が噴出し、飛び散った溶湯により火傷した。	11002	11	50 ～ 99

2021年、2020年の事例は新型コロナ罹患を含む。2011年の事例は東日本大震災による労働災害を含まない。

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.html(職場のあんぜんサイト)

[小起因物別の死亡災害事例（1999-2021年）](#)に戻る。

(参考) [労働災害の分類の概要](#)